

行雲流水

No. 128 令和3年11月29日発行

世界に目を向けて、考えよ

校長 寒河江 正人

「Think global, Act local.」

常に「世界に目を向け、今、自分がなすべきこと」を考えよ。

11月26日、「WHO（世界保健機関）」は、南アフリカなどで確認された**新型変異株**を最も警戒レベルが高い「**懸念される変異株（VOC: Variant of concern）**」に指定して、「**オミクロン株**」と命名した。

この指定によって、世界的な警戒対象となり、監視体制が強化されるとのこと。

欧米を中心に、アフリカ南部からの**渡航制限**が拡大するなど、各国は**厳戒態勢**に入った。日本政府も、**南アフリカ・ボツワナ・ジンバブエ・ナミビア・ザンビア・モザンビーク・マラウイ・レソト・エスワティニの9カ国**からの帰国・入国者に対して、指定宿泊施設で**10日間の待機**を求める水際対策を強化し始めた。

既に、**南アフリカ・ボツワナ・香港・ベルギー・イスラエル・イギリス・ドイツ・チェコ**での感染例が確認されているという。

世界で主流となった「**デルタ株**」を**駆逐するかのような勢い**で急速に広がっている。

「**オミクロン株**」は、①体内に入った異物を排除する**免疫から逃げる能力**がある。

②ワクチンを2回接種していても、**効果を低下させる**可能性がある。

③デルタ株をしのぐ**高い感染力**が疑われる。

先進国がワクチンを専有し、ワクチン接種の遅れが看過されてきたアフリカで変異が加速し、**危険なウィルスの「ゆりかご」**となってしまったのか。

南アフリカでは、ワクチン接種完了が**24%**。**ナミビア・モザンビーク**では、**11%台**。国際社会は、ワクチンの公平分配を急ぎ、保健医療が脆弱な地域を「**後回しにしたツケ**」を払わされる恐れがあるとメディアは報じている。

「WHO（世界保健機関）」のテドロス事務局長は、「**最も弱い人々を守るため、ワクチンの公平供給を加速しなければならない。**」と強調している。

もうすぐそこに「**オミクロン株の新たな脅威**」が迫っているのかもしれない。